

テロリストはアメリカ——イスラム国に関する大嘘

By Prof. Michel Chossudovsky

Global Research, September 26, 2014

オバマ大統領を議長とする会議において、国連安保理の後援を得て、アメリカは国際社会に向かって、国家および国際レベルで、イスラム国の兵士を募ることを抑止する強硬な措置を取るよう呼びかけた。

メディア報道が触れないのは、アメリカの反イスラム国キャンペーンを支持している国家や政府の首脳は、それぞれの秘密機関の忠告によって、アメリカ情報部こそがイスラム国を作ったという口にされない事実を知っており、それは、アメリカの援助による“ジハーディスト”（聖戦士）テロリストの広大なネットワークの一部であることを、十分に承知しているということである。諸国家は、アメリカ主導の決議を支持するように強要されているか、アメリカのテロ計画の一味であるか、どちらかである。



忘れないでおこう——サウディ・アラビアとカタールは、アメリカの代理として ISIL テロリストの財政支援と訓練を行ってきた。イスラエルは、ゴラン高原でイスラム国（ISIL）を庇護しており、NATO は 2011 年 3 月以来、トルコの最高司令部と組んで、シリアへ送るジ

ハーディスト兵士の募兵の指揮を執ってきた。更には、シリアとイラクの ISIL 部隊は、西側の特別軍と軍アドバイザーによって統合されたものである。

こうしたことは、すべて知られ記録された事実であるにもかかわらず、国家や政府首脳の誰一人として、9月24日に満場一致で採択された、米スポンサーによる国連安保理決議の馬鹿ばかしさを指摘する勇気をもたなかった。

「馬鹿ばかしさ」とは控えめな言い方である。我々が目撃しているのは、国連の支援を受けた犯罪計画である。

国家同士の外交はしばしば欺瞞に基づくことがあるとはいえ、アメリカの外交政策のウソはもはや限度を超えている。我々が目撃しているのは、確立された外交的習慣の完全な崩壊である。この“禁じられた真理”とは、イスラム国がワシントンの道具、アメリカ情報部の秘蔵物だということである。ISILは独立した実体でもなく、西側メディアが伝えるような、地球の安全を脅かす“外なる敵”でもない。

誰もがそれを知っているのだが、この大きなウソがまかり通っている。ウソが真理になっている。



オバマ大統領を議長とする 2014 年 9 月 24 日の国連安保理会議

国連安保理決議は、各加盟国に「外国のテロリスト兵士を募集したり、組織したり、移動させたり、装備したり、財政支援したりすることを控える」ように呼びかけている。特にこの決議が強調するのは「ISIL（イラクおよびレヴァント・イスラム国）ANF（アルヌスラ・フロント）、その他、アルカーイダの細胞、同志、分派、派生集団と関係する外国人テロリスト兵士に関して、この決議を特別に緊急に実行する必要性」である。しかし、これらの軍団はまさに、西側軍事同盟がバシヤール・アル・アサド政権を追放するために、徴兵し訓練した“反政府自由戦士”ではなかったのか？



シリアのアルカーイダ・リーダーたちと親しくするジョン・マケイン

ISIL は西側軍事同盟の歩兵である。彼らの口にされない指令は、アメリカのスポンサーの代理として、シリアとイラクに混乱と破壊をもたらすことである。その最終目標は、国家を単に縄張りの地にするのである。

国連安保理会議に出席した政治リーダーたちは、アメリカの反テロ主導に喝采を送った。フランス大統領フランソワ・オランドは、「テロリズムはいま別次元に移り、地域を征服しようとしている」と言った。

ヨルダン、トルコ、サウディ・アラビア、カタールといった、現在 ISIL やアルヌスラを支援しているいくつかのアメリカ同盟国は、今度は、シリア内部の ISIL を標的にしている

される、米スポンサーによる空爆に協力することになった。

トルコとヨルダン、シリアと境を接している。サウディ・アラビアとトルコは、イラクと境を接している。これらの国々の直接の軍事的絡み合いは、地中海から中央アジアに及ぶ、エスカレーションと派閥抗争のシナリオを指している。

このような観点から、トルコはすでに、イラクとシリア内部の地上作戦に携わる意向を表明している。新しく選ばれた **Ahmet Davutoğlu** 首相は、(安保理事会の前日に) 彼の新政府は、イラクとシリア両国に軍事介入する承認を、国会に求める予定だと言明した。

危険なのは、いわゆる偽装“飛行禁止区域”、反テロ指令のもとに、ほとんど市民居住地を目標とする、イラクおよびシリアへの爆撃を正当化することである。イスラム国を政治的に作り出したオバマ大統領、キャメロン首相、およびフランス、トルコ、サウディ・アラビア、カタール等の首長たちは、今、彼ら自身が作ったイスラム国に対して軍事行動を起こしているのである。歩兵による地上戦も考えられている。イラク政府筋によると、アメリカはイラクに約 1 万 3000 の歩兵を展開するだろうと言う。

西側諸国のリーダーたちは完全に無知で馬鹿か、それとも完全に腐敗した共謀者か、どちらかである。“テロリストはアメリカで R!” (The Terrorists R US!) それだけではない、彼らは自分たちの行動がどういう意味をもつかに、全く気付いていないように見える。

戦争プロパガンダは、“ニュルンベルク：平和に対する罪” 条項で、犯罪行為である。アメリカ外交政策のウソとねつ造を高く掲げることによって、主流メディアは戦争犯罪に加担することになる。

英首相デイヴィッド・キャメロンは、これを英国議会にかけるとの予定である。イギリスでもカナダでも、ジハーディスト運動を支援していると疑われた者に対して、市民権の剥奪が考慮されている。英首相が女王陛下の政府に呼びかけて、「イギリスのジハーディストにパスポートを制限するか取り上げようとしている、…内務大臣 **Theresa May** は、すでにイスラム国と共に戦っているイギリス人から、市民権を剥奪すると脅迫している。」

皮肉にも、キャメロン首相は、連合王国内部でイギリスのジハーディスト徴兵を、許可し組織した共謀者である。だから、罪状が確定するまでの間、彼のパスポートは「ジハーディスト運動を支援した」かどで没収されてしかるべきだろう。

ジョージ・W・ブッシュは 2001 年、「あなた方は我々につくか、テロリストにつくかどち

らかだ」と言った。禁じられた真理は、アメリカはいま悪魔的な企てに取り掛かっているということである。アメリカは主権国家を倒す目的で、イスラムのテロ・ネットワークを作り出し、今、その自分自身のテロ・ネットワークに戦争を仕掛けている。メディアのプロパガンダがなければ、この反テロを装った軍事アジェンダは崩壊して、トランプの家のように倒れるだろう。

米大統領と、彼の非の打ち所のない英国の盟友は、“テロリストで R”——彼らは征服戦争を仕掛けようと企む“テロの国家スポンサー”である。国連はこの企ての共犯者である。